

平成 30 年度 第 3 回古賀市健康づくり推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時 平成 31 年 2 月 26 日（火）19 時～20 時半

2. 開催場所 サンコスモ古賀 201・202 会議室

3. 会議次第

1) 保健福祉部長あいさつ

2) 協議事項

①古賀市いのち支える自殺対策計画（案）最終検討について

②ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）の推進状況について

3) その他

4. 出席委員 古賀市健康づくり推進協議会委員 出席委員：13名 欠席委員：3名

5. 傍聴者 無

6. 議事概要

①古賀市いのち支える自殺対策計画（案）最終検討について

- ・古賀市いのち支える自殺対策計画（案）（資料 1）
- ・H30 年度ゲートキーパー研修実施状況（資料 2）

②ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）の推進状況について

- ・ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次））の推進状況について（資料 3）
- ・ヘルスアップぷらん（古賀市食育推進計画）の推進状況について（資料 4）
- ・具体的な食育の取組について（資料 4-2）
- ・特定健診・がん検診の受診状況について（資料 5）
- ・健康チャレンジ 10 か条普及啓発実施状況（資料 6）
- ・健康チャレンジ 10 か条広報掲載資料（資料 7）
- ・平成 30 年度健康チャレンジ 10 か条推進委員会 実施状況（資料 8）
- ・平成 30 年度古賀市家族コツコツ健康づくり事業測定実績一覧（資料 9）

健康づくり推進協議会における質疑応答・意見交換

事務局	<p>①古賀市いのち支える自殺対策計画（案）最終検討について (資料1～2) 資料1～2を説明。</p>
委員	<p>資料1の4ページ(2)について、元々の総人口が独居よりも同居が多いので、割合という表現はおかしいのでは。</p>
事務局	<p>10ページ(4)について、相談の具体的な内容はどのようなものか。</p>
事務局	<p>28ページの事業・取組欄の「各種相談窓口」の対応時間はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>4ページについては表現を検討する。</p>
事務局	<p>10ページの相談内容は、経済的なことや就業についてなどさまざまであるが、基本的には生活保護支給の前段階として相談者が自立した生活が送れるような支援を行っている。</p>
事務局	<p>28ページの各種窓口の対応時間については、原則平日の8時半～17時であるが、窓口によって異なる場合もある。虐待等緊急性の高いものは、時間や曜日にかかわらず対応している。</p>
委員	<p>現在古賀市にも外国人が多く住んでいる。計画案の中に中国残留孤児に対する支援とあるが、それ以外の外国人への支援はあるか。</p>
事務局	<p>現在工業団地で働いている方や観光客対応等で外国人に対する支援の需要は高まっている。そこで、本市においても日本語教室等、日本語習得の支援を実施している。</p>
事務局	<p>また、古賀市在住の外国人がゴミ出しの方法等、生活上での困りごとを多く抱えている現状から、外国人対応のプロジェクトの立ち上げを進めている。</p>
委員	<p>古賀市にはどの国の外国人が多く在住しているのか。</p>
事務局	<p>中国やベトナムの方が多い。</p>
委員	<p>福岡県では10か国語ほど対応できる医療機関の情報一覧（ふくおか医療情報ネット）がある。</p>
委員	<p>実際に日本語がほとんどわからない患者さんが来院され、新宮町にある外国人対応の医療機関に繋いだこともある。外国人対応のある医療機関一覧を古賀市版として作るとよいのでは。</p>

事務局	<p>②ヘルスアップぷらん（古賀市健康増進計画（第二次）・古賀市食育推進計画）の推進状況について (資料3～9)</p> <p>資料3～9を説明。</p>
委員	<p>小野小学校のおやつ授業は、当初テーマについて協議した際、小学校の先生から健康課題として過体重が挙げられた。児童の生活背景からおやつ食べ方が原因のひとつとして考えられたことから、今回のテーマとした。</p> <p>授業前日に一人ひとり活動量計をつけて自分の動き（消費エネルギー）がどの程度か認識したことで、おやつ授業の理解度が非常によく、子どもなりに行動目標もきちんと立てられていた。</p> <p>また、今回の授業は二分の一成人式の日で、授業参観も兼ねて親子で学習する機会となった。参観に来ていた保護者も興味を持って聞いてくださったが、来ていない保護者も子どもから授業内容を聞き、おやつ摂り方を再考したいという方もいらしたようだ。</p> <p>普段食べているおやつエネルギーや活動量計を活用して子どもの生活実態を見える化したことが、子や保護者の心に響いたのだと思う。</p>
委員	<p>子どものころからの教育は大切。</p> <p>他町で血液検査を導入しているところもあるようだが、保護者等とのトラブルも多いようでなかなか難しい。</p>
委員	<p>保護者への啓発は、子どもを活用すると効果的。（おやつ、喫煙など）</p> <p>しかし、このことが原因で子どもが虐待にあう可能性もあるので、気を付けなければならない。</p> <p>健診受診率アップには、以前もお伝えしたように「ナッジ (Nudge)」が効果的である。人間は、「●●すると損する」という心理に弱い。「●●すると損する」は「●●すると得する」の2倍の効果がある。例えば「健診の1万円分チケット」を配布すれば、「使わないと損」という心理が働くため受診に繋がりがやすい。また、これに期限が加わるとより効果が高まる。ナッジを活用した啓発が自治体でも効果が出てきているので、ぜひ活用していただきたい。</p> <p>10 か条の普及については、クイズ形式にして覚えさせるなど誘導するとよいのでは。</p>
委員	<p>以前健診受診料を1,000円から500円に値下げを行ったが、それでも受診率は変わっていない。それならば、1年は無料という期間を設けてはどうか。受診のきっかけづくりにもなる。値下げするなら極端なことをしたほうがよいのでは。</p>

委員	わざわざ保健指導を受けに行くというのは、ハードルが高い。
委員	市民は「他の人はみなさんやっていますよ」という言葉に弱い。 周りがやっているのに自分だけやっていない、という心理を利用するのもひとつの手である。
委員	がん教育について、東医療センター内で学校向けに実施することを視野に入れている。先ほど意見で挙げたように、保護者への啓発は子どもを活用すると効果的である。 子どもに対してがん教育を行うことで、子どもから保護者へ内容が伝われば、がん検診の受診率向上に寄与できるかと思う。
事務局	東医療センターの地域連携室からその旨の連絡があり、協議を進める予定である。
委員	青柳小学校に毎年ブラッシング指導に伺っている。 咀嚼の程度を調べるガムを噛ませているが、きちんと噛めている子どもはなかなかいない。自分の咀嚼の程度が目に見える形でわかるため、子どもも危機感を持っている様子である。食事における咀嚼回数は、卑弥呼の時代は1食4000回、戦前は1500回、現在は600回と、大幅に減少している。 このような啓発を各学校でできればよいと思っている。学校から校医に直接依頼していただければ、校医も動きやすい。
委員	咀嚼回数を計測する機械があると聞いた。 遊びの中に健康のエッセンスを入れると、無関心層も取り組みやすいのでは。